

殺虫剤

技術資料

2つの殺虫成分配合 新作用※ 枝に浸透&直接殺虫 長く効く！

1ヵ月持続(ルビーロウムシ 夏期孵化幼虫)

庭木・ばらのカイガラムシ退治

1年中使える！ 冬期の成虫にも

高い所まで届く！ ジェット噴射

カイガラムシエアゾール

Q & A



登録番号	農林水産省登録 第23518号
商品名	カイガラムシエアゾール
成分 (含有量)	クロチアニジン…………… 0.030% フェンプロパトリン…………… 0.020%
性状	無色透明液体
種類名	クロチアニジン・フェンプロパトリンエアゾール
容量	480ml 入

※カイガラムシ防除エアゾールの成分として

CONTENTS

	はじめに	2
Q1	カイガラムシエアゾールの特長を教えてください。	2
Q2	カイガラムシエアゾールの有効成分について教えてください。	3
Q3	登録内容を教えてください。	3
Q4	カイガラムシについて教えてください。	4
Q5	エアゾールならではのメリット、使い方のコツを教えてください。	4
Q6	効果試験などあれば教えてください。	5
Q7	樹木の種類によって葉害の心配はありませんか？	6
Q8	一般的なカイガラムシ防除剤であるマシン油乳剤と効果に差があるのですか？	9
Q9	人畜や環境に対する安全性情報を教えてください。	9
Q10	使用上の注意点があれば教えてください。	10
	参考 委託試験成績	11

はじめに

カイガラムシはさまざまな庭木に一年中発生する害虫です。園芸愛好家にとっては退治しにくく厄介な害虫の一つで、越冬中のカイガラムシ成虫を冬期に防除し、くわえて春から秋の繁殖期の幼虫も的確に退治できるカイガラムシ用殺虫剤が待ち望まれてきました。**カイガラムシエアゾール**は有効成分に作用性の異なる2つの殺虫成分(クロチアニジン、フェンプロパトリン)を配合し、新作用^{*}で効果的にカイガラムシを退治します。またエアゾールの特性を活かしジェット噴射により低～中木のカイガラムシ防除が手軽にできるようになりました。庭木のカイガラムシ防除に新提案！**カイガラムシエアゾール**です。

※カイガラムシ防除エアゾールの成分として

Q1 カイガラムシエアゾールの特長を教えてください。

A1 カイガラムシエアゾールには次のような特長があります。

- さまざまな庭木やばらのカイガラムシを、2つの成分で効果的に退治します。
- 成分が枝に浸透して殺虫効果が約1ヵ月持続(ルビーロウムシ 夏期孵化幼虫)するので、散布後に発生した害虫も退治します。
- 夏期だけでなく冬期の越冬成虫にも効果があります。
- ジェット噴射で高い所まで薬剤が届きます。

Q2 カイガラムシエアゾールの有効成分について教えてください。

A2 カイガラムシエアゾールの有効成分は次のとおりです。

殺虫成分① クロチアニジン

ネオニコチノイド系の殺虫成分です。植物体内への浸透移行性があり、薬剤が枝に浸透し、殺虫効果が持続します。有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系などの各種殺虫剤に対し感受性が低下した害虫にも高い効果を発揮します。殺虫スペクトラムが広く半翅目(アブラムシ類、カイガラムシ類、カメムシ類など)、双翅目(ハモグリバエなど)、甲虫目(コガネムシ類など)、チョウ目(アオムシ、ヨトウムシ、ケムシなど)、アザミウマ目(アザミウマ類など)、直翅目(イナゴなど)の各種害虫にすぐれた防除効果を発揮します。

殺虫成分② フェンプロパトリン

ピレスロイド系の殺虫成分の一つで、多くの害虫に効果があります。殺虫スペクトラムが極めて広く、半翅目(アブラムシ類、カメムシ類など)、チョウ目(アオムシ、ヨトウムシ、ケムシなど)、アザミウマ目(アザミウマ類など)、ハダニ類などの主要害虫に対して卓効を示します。

殺虫力と速効性にすぐれ、接触作用により薬液が害虫にかかるとその反応が早く、ノックダウン効果が得られます。摂食阻害、産卵阻害などの忌避作用もあります。浸透移行性剤のような残効性はありませんが、発生が甚大な状況でないかぎり、その速効的な効果で発生害虫を的確に防除できるので、害虫の密度抑制に効果的です。

● 2つの殺虫成分配合

新作用※ 枝に浸透&直接殺虫！

※カイガラムシ防除エアゾールの成分として

対象	成分	種類	作用	効果
殺虫	クロチアニジン	ネオニコチノイド系	神経伝達の遮断	浸透移行性、持続性
	フェンプロパトリン	ピレスロイド系	神経伝達の異常興奮	速効性

Q3 登録内容を教えてください。

A3 カイガラムシエアゾールの適用作物はカイガラムシの被害が多い「樹木類」と「ばら」です。エアゾールの特性を活かし、ツルバラや樹木類など低～中木でのカイガラムシ防除に適しています。



バラシロカイガラムシ

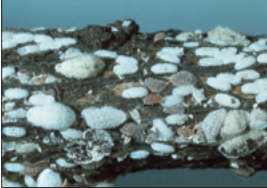
適用害虫と使用方法

※印は本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	使用方法	総使用回数※
ばら	バラシロカイガラムシ	噴射液が均一に付着するように約30cm離れた所から数回断続して噴射する。	本剤: 4回以内 クロチアニジン: 4回以内 フェンプロパトリン: 6回以内
樹木類	カイガラムシ類		

Q4 カイガラムシについて教えてください。

A4 カイガラムシにはさまざまな種類があります。

ワタフキカイガラムシ科	シロカイガラムシ族	カタカイガラムシ科		
イセリアカイガラムシ	ウメシロカイガラムシ	カメノコロウムシ	タマカタカイガラムシ	ヒモワタカイガラムシ卵のう
				
フクロカイガラムシ科	ワタフキカイガラムシ科	カキカイガラムシ族	コナカイガラムシ科	
サルスベリフクロカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ♀♀	クロイトカイガラムシ	ミカンコナカイガラムシ	マツコナカイガラムシ
				

生 態

カイガラムシといっても大きさや形などは様々です。日本で名前が付いている種類だけでも400種以上います。カイガラムシを大別すると、成虫になった時に脚が退化して葉や枝に固着する種類と成虫になっても歩き回る種類があります。前者には丸い扁平な殻を持ったマルカイガラムシ類、牡蠣の形をした殻を持ったカキカイガラムシ類、お椀のように丸く盛り上がったロウムシ類などがあります。後者は殻がなく体表が白い粉状や綿状の分泌物に覆われている種類でフクロカイガラムシ類やコナカイガラムシ類(分泌物を取り除くとワラジムシのような虫がいます)などがあります。アブラムシと異なり繁殖回数は少なく、よく繁殖するコナカイガラムシでも年に数回、ロウムシ類では1回しか発生しません。雄がいなくて雌だけで繁殖する種類もありますが、多くはコバエのような翅のある雄がおり、交尾して産卵します。雌成虫は繰り返し産卵せず、産卵後直ぐに死ぬ種類もあります。

被 害

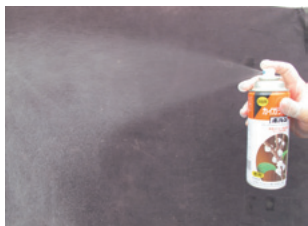
直接的な被害と間接的な被害があります。直接的な被害は付着しているカイガラムシそのものが美観を損ねることと、吸汁されるため生育に悪影響を及ぼすことです。寄生数が多いと新梢や新葉の出方が悪くなったり、枝枯れを起こすこともあります。間接的な被害は排泄物の上にすす病が繁殖して葉が黒くなることです。美観が悪くなるだけでなく、植物にとって大切な光合成が妨げられ生育が悪くなります。また、枝などの寄生場所にビロード状の物が付着したように見えるこやく病を誘発します。変わった被害症状としては枝や幹に5mm前後の円形の白っぽい斑点を生じることがあります。これはカイガラムシが付着していた痕跡です。

Q5 エアゾールならではのメリット、使い方のコツを教えてください。

A5 エアゾールならではのメリット、使い方のコツは次のとおりです。

エアゾールならではのメリット

カイガラムシエアゾールは480ml大容量のジェット噴射エアゾール剤です。低～中木の庭木に発生したカイガラムシ防除に従来のマシン油配合エアゾールでは散布量が物足りないような場合や、乳水和剤では散布液を作る手間がかかり、作った散布液も余らせたりするといった方にお勧めの商品です。またマシン油配合エアゾールは水性ベースなので、散布前に缶をよく振る必要があり、また逆さ散布ができないというデメリットがあるのに対し**カイガラムシエアゾール**は使用前に缶を振る必要もなく、逆さ散布も可能で、効率よく作業をすることができます。

剤型 商品	ジェット噴射エアゾール カイガラムシエアゾール	従来の水性エアゾール剤 当社従来品
噴霧パターン	 噴射距離約3m(無風水平方向)	
メリット	・噴射がジェットなので風の影響を受けにくい ・高い所に届く ・低～中木に◎	・散布ムラが少ない ・鉢植え～低木に◎ ・少～中量使用に◎
デメリット	・近接散布による冷害	・風の影響を受ける ・近接散布による冷害

エアゾールならではの使い方のコツ

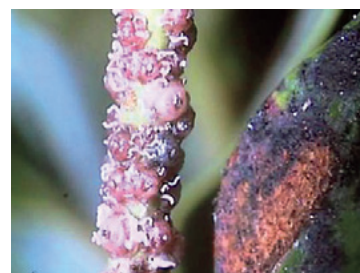
- 一カ所に集中して連続噴射すると植物に影響がでる場合がありますので、局所的な集中噴射は避けてください。
- 本剤はジェット噴射のため、連続約2分で全量噴射されます。

Q6 効果試験などあれば教えてください。

A6 試験結果は次のとおりです。

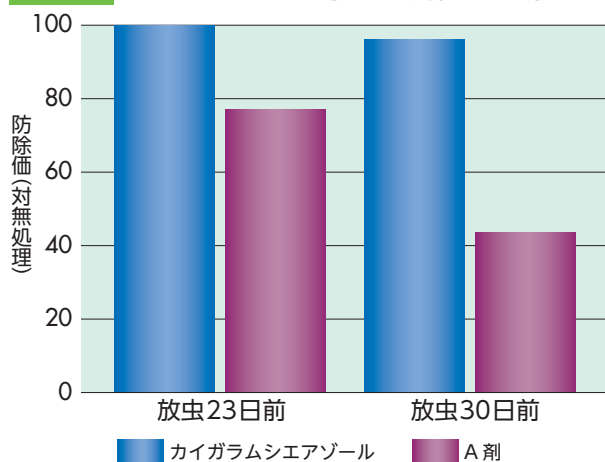
1. 殺虫効果が約1ヵ月持続(ルビーロウムシ 夏期孵化幼虫)

効果の持続性を確認するためルビーロウムシとミカンヒメコナカイガラムシで試験を行いました。ルビーロウムシの試験ではカイガラムシエアゾール処理区は、放虫23日前処理でルビーロウムシの繁殖を完全に抑え、放虫30日前処理でもわずかの発生に留めており、殺虫効果が約1ヵ月持続することを示しています(グラフ1)。またミカンヒメコナカイガラムシについても放虫28日前処理で高い防除価を示しています(グラフ2)。

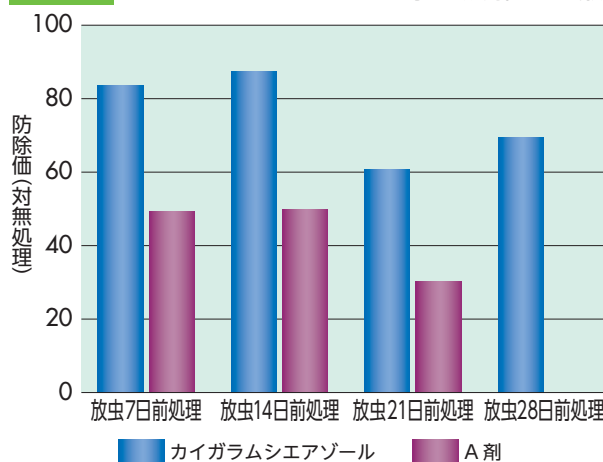


ルビーロウムシ

グラフ1 ルビーロウムシに対する残効性確認試験



グラフ2 ミカンヒメコナカイガラムシに対する残効性確認試験



【試験期間】2014/5/28~7/9 【供試虫】ルビーロウムシ孵化幼虫 【供試植物】サザンカ(品種:ユーレタイド、5号鉢、樹高約30~40cm) 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】サザンカに供試薬剤を処理した(5/28、6/4)。処理後23日間および30日間経過した株に供試虫が寄生しているゲッケイジュに7日間接触させ供試虫の移動を促した。接触を解除してから5日後に定着した個体数を調査し、残効性として評価した。【試験規模】1区3株反復なし 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(ガラス温室)

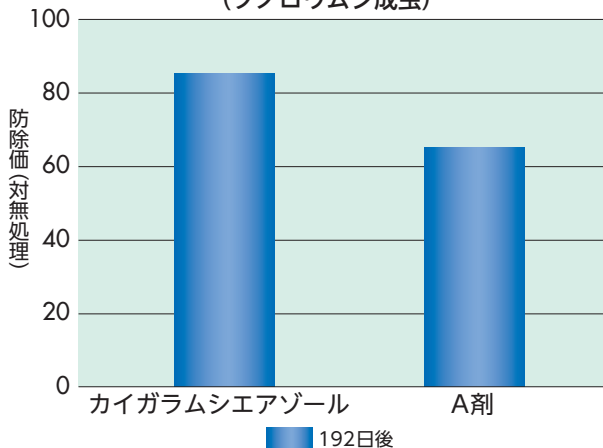
【試験期間】2014/5/15~6/26 【供試虫】ミカンヒメコナカイガラムシ成虫・幼虫 【供試植物】クロトン(品種:流星、4号鉢、樹高約30~40cm) 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】クロトンに供試薬剤を処理した(5/21、5/28、6/4、6/11)。処理後28日間、21日間、14日間、7日間経過した株に供試虫を放虫した。放虫はシュートの生長点付近に10~20頭ずつ、株あたり2シュートに放虫した。放虫8日後に死亡の有無を調査し、残効性を評価した。【試験規模】1区3株反復なし 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(ガラス温室)

2. 冬期防除で、越冬成虫及び卵に対し効果を発揮！

以下のグラフはツノロウムシの成虫及びサルスベリフクロカイガラムシの越冬卵に1月下旬に**カイガラムシエアゾール**を散布した試験結果です。冬期防除によって次世代の幼虫数が減少し、高い防除効果が確認されました。

越冬成虫に効く！

グラフ3 カイガラムシ類冬期越冬個体防除試験
(ツノロウムシ成虫)

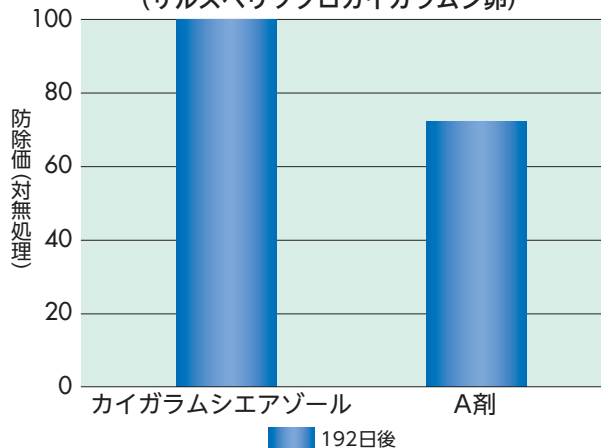


【試験期間】2014/1/21~8/1 【供試虫】ツノロウムシ成虫 【供試植物】サザンカ(品種:不明 樹高約3.0m) 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】サザンカに寄生するツノロウムシ成虫に供試薬剤を十分量噴射し、処理192日後に次世代幼虫数を調査し、防除効果として判定した。
【試験規模】1区3~4枝3反復 【試験場所】茨城大学農学部(屋外)

越冬卵にも効く！

※効果が持続するため、孵化直後の幼虫に効いていると推測されます。

グラフ4 カイガラムシ類冬期越冬個体防除試験
(サルスベリフクロカイガラムシ卵)



【試験期間】2014/1/21~8/1 【供試虫】サルスベリフクロカイガラムシ卵(一部幼虫で越冬) 【供試植物】サルスベリ(品種:不明 樹高約3.0m) 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】サルスベリに寄生するサルスベリフクロカイガラムシ卵に供試薬剤を十分量散布し、処理192日後の次世代幼虫数を調査し、防除効果として判定した。 【試験規模】1区1枝3反復 【試験場所】茨城大学農学部(屋外)

Q7 樹木の種類によって薬害の心配はありませんか？

A7 効果確認のため委託試験及び自社試験を実施した以下の樹種について薬害のないことを確認済みです。

樹種	供試虫	散布日	薬害	試験地
クロトン	ミカンヒメコナカイガラムシ	2013/9/17	—	茨城大学
		2014/5/15,5/21,5/28,6/4,6/11	—	弊社製品開発センター
サザンカ	ツノロウムシ	2013/7/13	—	茨城大学
		2014/5/28,6/4	—	弊社製品開発センター
マサキ	ルビーロウムシ	2014/1/27	—	弊社製品開発センター
サルスベリ	サルスベリフクロカイガラムシ	2013/6/17	—	千葉大学
		2014/1/21	—	茨城大学
バラ	バラシロカイガラムシ	2013/3/26	—	弊社製品開発センター

また上記以外に自社試験にて以下の樹種について夏期及び冬期の散布で薬害のないことを確認しました。

夏期薬害試験

夏期高温時の散布でも**カイガラムシエアゾール**は薬害の心配が少ないです。

供試植物	供試薬剤	1日後	3日後	7日後 (1週)	21日後 (3週)	28日後 (4週)
バラ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	±2	±2	×	×
	無処理	—	—	—	—	—
ツバキ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
サンゴジュ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
キンメツゲ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
ツツジ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	±1
	無処理	—	—	—	—	—
マサキ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
マツ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
キンモクセイ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
モチノキ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
モッコク	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—
サルスベリ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	±1	±1	+	+
	無処理	—	—	—	—	—
ベニカナメ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	±1	±1	±1	±1
	無処理	—	—	—	—	—
ミモザ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—
	A剤	—	±1	±1	+	+
	無処理	—	—	—	—	—

*バラではA剤処理区に3日後から葉縁の褐変が見られた。21日後からは黒星病により落葉が見られ調査不可能となった。

*ツツジではA剤処理区に28日後から葉の変色が見られた。

*サルスベリではA剤処理区に3日後から葉の変色が見られ、21日後には落葉が見られた。

*ベニカナメではA剤処理区に3日後から葉の変色が見られた。

*ミモザではA剤処理区に3日後から葉の変色が見られ、21日後には落葉が見られた。

【試験期間】2014/7/28～8/25 【供試植物】バラ(品種:ブルドゥパルファム)、ツバキ、サンゴジュ、キンメツゲ、ツツジ、マサキ、マツ、キンモクセイ、モチノキ、モッコク、サルスベリ、ベニカナメ、ミモザ 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】供試薬剤を各樹木に十分量処理し、処理後経時的に薬害の有無を調査した。 【試験規模】1区30cm×30cm程度 反復なし 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(屋外)

【判定基準】

—: 薬害なし

+: 重度の薬害あり(実用上問題あり)

±1: 薬害が認められるが実用上問題なし

±3、±2: 実用上問題ないと思われるが薬害程度は高い

冬期薬害試験

冬期低温時の散布でも**カイガラムシエアゾール**は薬害の心配が少ないです。

供試植物	供試薬剤	1日後	2日後	8日後 (1週)	14日後 (2週)	21日後 (3週)	28日後 (4週)	35日後 (5週)	49日後 (7週)	57日後 (8週)	74日後 (10週)
ツバキ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サザンカ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ボケ	カイガラムシエアゾール	±1	±1	±1	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	±1	±1	±1	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クチナシ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バラ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	±1	±3	±3	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マサキ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ミモザ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	±1	±1	±3	±3	±3	±3	±3	±3
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サルスベリ	カイガラムシエアゾール									—	—
	A剤									—	—
	無処理									—	—
サクラ	カイガラムシエアゾール								—	—	—
	A剤								—	—	—
	無処理								—	—	—
マツ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ベニカナメ	カイガラムシエアゾール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無処理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

*判定の空欄は枝のみのため判定不能。新芽の影響を調査とした。

*1日後、A剤処理区の植物は光沢が見られた。(マシン油と思われる)

*ボケでは1日後、カイガラムシエアゾール、A剤散布個所の花卉の一部に褐変が見られた。

*ミモザでは8日後、A剤散布の葉の白っぽさがなくなり黄色に変色。21日後、一部の葉が落葉。

*バラでは21日後、A剤散布の葉の縁が褐変。28日後、新葉の一部が褐変。

【試験期間】2014/2/24～5/9 【供試植物】ツバキ、サザンカ、ボケ、クチナシ、バラ、マサキ、ミモザ、サルスベリ、サクラ、マツ、ベニカナメ
 【供試薬剤】カイガラムシエアゾール、A剤 【試験方法】供試薬剤を各樹木に十分量処理し、処理後経時的に薬害の有無を調査した。【試験規模】1区30cm×30cm程度 反復なし 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター（屋外）

【判定基準】

—：薬害なし

±：重度の薬害あり(実用上問題あり)

±1：薬害が認められるが実用上問題なし

±3、±2：実用上問題ないと思われるが薬害程度は高い

Q8 一般的なカイガラムシ防除剤であるマシン油乳剤と効果に差があるのですか？

A8 カイガラムシエアゾールと一般的なマシン油乳剤はいずれもカイガラムシを退治する薬剤ですが、作用性が異なります。それぞれの作用性を活かした使い方をすることで効果的にカイガラムシを防除することができます。

	カイガラムシエアゾール	マシン油乳剤
成分	クロチアニジン フェンプロパトリン	マシン油
作用性	カイガラムシの神経伝達に直接作用	物理的防除作用。油の膜でカイガラムシを覆い気門封鎖により窒息させる
メリット	効果が持続（クロチアニジン） 接触効果（フェンプロパトリン） 一年中使える	物理的防除剤なので抵抗性がつきにくい
注意点	エアゾール剤なので、散布量が多すぎると薬害を生じるので注意	高温時に薬害を生じやすい 散布直後の降雨は効果が低下

Q9 人畜や環境に対する安全性情報を教えてください。

A9 カイガラムシエアゾールの安全性に関するデータは下記の通りです。参考にしてください。

●人畜毒性:普通物相当（※1）

※1 農薬は毒性の強い順に特定毒物、毒物、劇物、普通物の4種類に分けられます。（普通物は毒劇物に該当しないものを指している通称です。）

●急性経口毒性（※2） LD₅₀ ラット >2000 mg/kg

※2 LD₅₀:半数致死薬量。薬物の投与実験で、50%の個体を死に至らしめる薬物量。供試動物の単位重量当りの薬物重量(mg/kg、μg/g)で表す。(毒物:LD₅₀ 値 50mg/kg以下、劇物:LD₅₀ 値 50mg/kgを超え300mg/kg以下)

●急性経皮毒性（※3） LD₅₀ ラット >2000 mg/kg

※3 (毒物:LD₅₀ 値 200mg/kg以下、劇物:LD₅₀ 値 200mg/kgを超え1000mg/kg以下)

●眼刺激性 刺激性なし（ウサギ）

●皮膚刺激性 刺激性なし（ウサギ）

●皮膚感作性 陰性（モルモット）

Q10 使用上の注意点があれば教えてください。

A10 カイガラムシエアゾールの使用上の注意事項は次のとおりです。

効果・薬害等の注意

- 植物から約30cm以上離して、薬液が均一に付着するように1～3秒ずつ断続的に噴射してください。新芽、新葉、花弁には十分注意してください(冷害)。
- 花にかからないように注意してください(シミ等の薬害)。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

安全使用上の注意 マスク着用

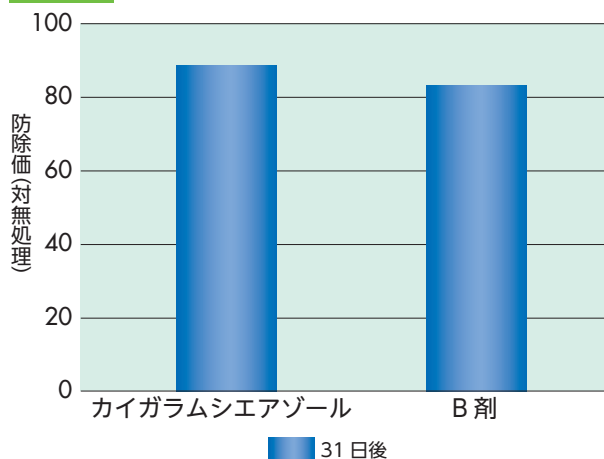
- 体調のすぐれない時は散布しないでください。
- 室内及び人体に向けて噴射しないでください。
- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は、直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください(刺激性)。使用後は洗眼してください。
- 本剤は、のど、鼻、皮ふなどを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意してください。
- 使用時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に噴射液がかからないよう注意してください(変色)。
- ミツバチ及び蚕に影響があるので注意して使用してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 取扱いに注意してください。
- 使用後の空缶は戸外でボタンを押してガスを出しきったことを確認してから捨ててください。

治療法

- フェンプロパトリンには、メトカルバモール製剤の投与が有効です(動物実験で報告)。

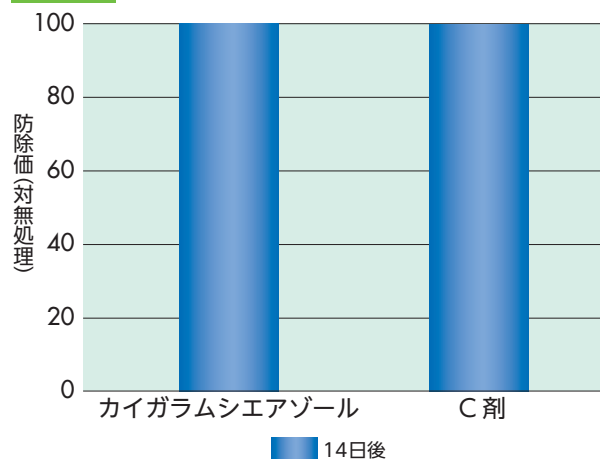
参考 委託試験成績

グラフ5 バラシロカイガラムシ防除効果



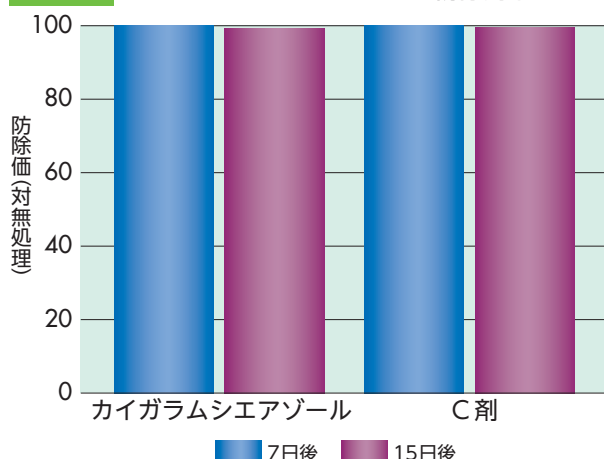
【試験期間】2013/3/26~4/26 【供試虫】バラシロカイガラムシ 【供試植物】ばら(シルバーシャドウズ 6号鉢) 【処理日】2013/3/26 【発生状況】多発生 【規模】1区5株3連制 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(屋外)

グラフ6 ミカンヒメコナカイガラムシ防除効果



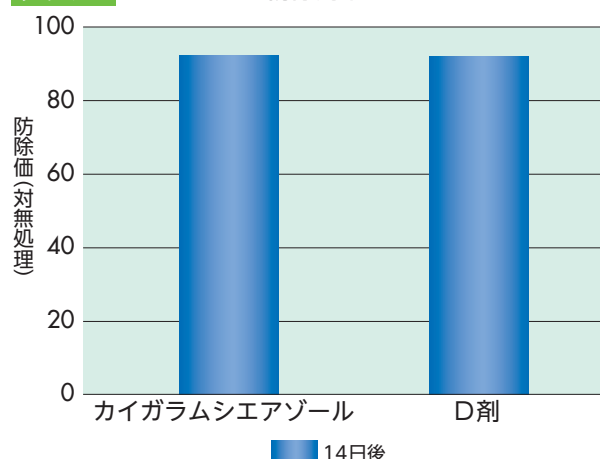
【試験期間】2013/9/17~10/1 【供試虫】ミカンヒメコナカイガラムシ 【供試植物】クロトン(流星) 【処理日】2013/9/17 【発生状況】少発生(放虫) 【規模】1区10株3連制 【試験場所】茨城大学農学部(ビニールハウス)

グラフ7 ミカンヒメコナカイガラムシ防除効果



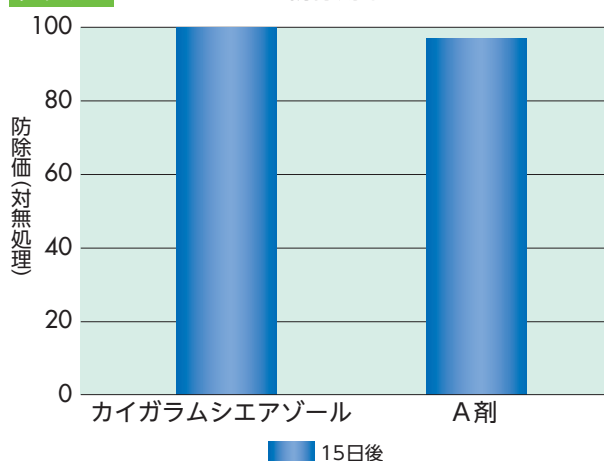
【試験期間】2013/7/19~8/3 【供試虫】ミカンヒメコナカイガラムシ 【供試植物】クロトン(流星 5号鉢) 【処理日】2013/7/19 【発生状況】少発生 【規模】1区10株3連制 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(温室)

グラフ8 ツノロウムシ防除効果



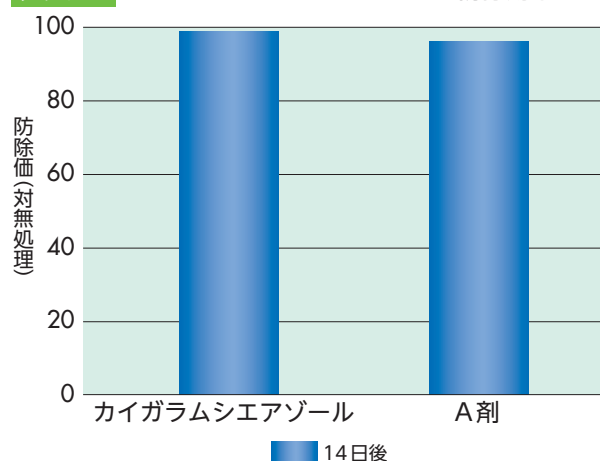
【試験期間】2013/7/13~7/27 【供試虫】ツノロウムシ 【供試植物】サザンカ(立ち寒) 【処理日】2013/7/13 【発生状況】中発生 【規模】1区1枝3連制 【試験場所】茨城大学農学部(屋外)

グラフ9 ルビーロウムシ防除効果



【試験期間】2013/7/23~8/7 【供試虫】ルビーロウムシ 【供試植物】サザンカ(千代鶴山茶花 21リットル角型プランター) 【処理日】2013/7/23 【発生状況】中発生(放虫) 【規模】1区1株4連制 【試験場所】弊社研究開発部製品開発センター(屋外)

グラフ10 サルスベリフクロカイガラムシ防除効果



【試験期間】2013/6/17~7/1 【供試虫】サルスベリフクロカイガラムシ 【供試植物】サルスベリ(品種不明 樹高約2m) 【処理日】2013/6/17 【発生状況】中発生 【規模】1区1枝3連制 【試験場所】千葉大学園芸学部(屋外)



あしたを育てる。

住友化学園芸株式会社

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1-8

●商品についてのお問い合わせ先 TEL:03(3663)1128
(9:30~12:00/13:00~16:30/土、日、祝日を除く)

住友化学園芸ホームページ

～ガーデニング・園芸・家庭菜園・くらしの情報サイト～

eグリーンコミュニケーション

● e-green communication ●

www.sc-engei.co.jp

この印刷物の記載内容は2014年10月現在の内容です。

14.11.01